

第 18 回縮小社会研究会（秋季大会）の報告

研究会参加者：45名

懇親会参加者：25名

時：2013年10月19日、13時30分-17時、

所：京都大学文学部第3講義室（地図は下記）

1. 13:30—14:30 「近代産業社会の終焉を前に—縮小社会とジェンダー」

伊藤公雄（京都大学文学部）

概要：はじめに 世界像とジェンダー 1 近代産業社会とジェンダー、イリイチ・ジェンダー論再考 2 生産性と拡大の論理、男性原理と資本制 3 近代産業社会の終焉と脱男性主導社会の展望

2. 14:40—15:40 「不便益：「素数ものさし」の不便はイヤですか」

川上浩司（京都大学情報学研究科）

概要：縮小したら不便な生活が待っているのではないのでしょうか？そんなのはイヤだとは言わせない、不便に耐え忍びなさい、と主張しているかのように読める本が今年出版され（縮小社会とは無関係ですが）、ネットで辛辣に批判されています。ところで、不便とは無条件に忌避されるべきもので、耐え忍ぶものなのではないのでしょうか？

3. 15:50—16:50 「現代世界衰退の法則」

中西 香（四天王寺大学非常勤講師）

概要：世界経済の近年の動向は①拡大至上主義の限界②先進国衰退の 21 世紀、を指し示している。にもかかわらず③これまでのように拡大主義を追い求めるとカタストロフ（破局的大災害）が待ち受け、④縮小社会こそが人類生存への必然・唯一の道である。

会員懇親会：17時00分-19時、 所：文学部第1講義室、会費2500円